

第三回

『昭和30年代の社会情勢と私』

話しは変わるが、昭和30年代から40年代にかけて、花王からの発注も多くなり、金の卵と中卒女子の就職希望者がもてはやされた時代、日本の経済状況も勢いが良く、花王株式会社も各部門での生産が活発になり、山本化学工場も急ピッチで増員し、下請け業として花王の生産要求に応えて行かなくては（他の企業に奪われる可能性が大きかった）ならないので、社長職の自分が求人先の先頭に立つて県内奥地にある学校を駆けずり廻った。各地区の職安の皆さんの機嫌を取り、学校を紹介して頂いて、先生に許可をもらって家庭訪問するといった状況です。集まった数人の子供達は親元を離れての就職だったため、住まわす会社の寮が必要となった。そこで太田工場を会社寮に変えたのです。その子供達は経済的に厳しい状況であったが、その目は輝き意欲に満ちていた。その中のひとりの娘が：「社長さん私ね、3年間休まず働き30万円を貯めて自分で結婚資金を作ります。」と言った。彼女は無欠勤で頑張り約束通り3年間で300万円を貯めた。その郵便貯金通帳を見せてもらったとき、彼女の芯の強さに感心させられたものです。彼女のご主人は現在、花王和歌山工場の現役社員です。このようにして人を集めたが、それでも注文に応じるには人が足りなかった。何とかしなければと思っていた頃、和歌山職安から呼び出しを受け出向いたところ、なじみの担当者の方から「実は、神戸職安で沖縄から内地への集団就職を斡旋していると言う話だがこれに応募してみないか。」との事。「私、行きますよ。」と即答して参加することにした。（当時我社には沖縄出身の金城さんという人も働いていた。）

当時沖縄は、アメリカ政府下に置かれていた。県民は戦時中、戦下に生死をさまよい、戦後さらに進駐軍に悩まされ、まさに苦しいどん底にあった頃です。沖縄政府の職業安定課を訪ねると、担当者は私に親切丁寧な扱いをしてくださいました。「花王石鹸（現在の花王株）」と取り引きしている堅い会社なら沖縄職安は全面協力します。日曜日に新聞広告の結果が出ますから月曜日に面接しましょう。」と、言ってもらえたのです。実は私にはもう二目的があったのです。それは：ケラマ列島での釣りである。沖縄の元部会長に、「ぜひとも。」と言われたこともあり、絶好のチャンスとも思った。

永年勤続表彰対象者

★年始の始業式にて、優良従業員の表彰式を行います。

永年勤続 52名

永年勤続
30年

山本 良文さん・土山 純さん

永年勤続
20年

岩脇 敏さん・小山 千昭さん

永年勤続
10年

竹田 道郎さん・倉本 万里子さん・吉田 恵美さん・楠戸 ゆかりさん・北面 由美子さん・森 トミエさん・新田 真理子さん・堀辺 恭代さん・延川 敦子さん・手嶋 幸美さん・笹尾 泉さん・吉岡 嘉哉さん・森 千恵美さん・倉根 八千代さん・金連姫（馬連姫）さん・杉原 京子さん・原島 富美子さん・中川 正子さん・藤原 利江子さん・小林 幸子さん・打越 洋子さん・井谷 斉明さん・大久保 賀召さん・石橋 優子さん・石井 元さん・吉田 浩二さん・柳 繁子さん・伊原 由香里さん・大倉 ケンペットさん・山之内 操さん・山本 浩伸さん・阪中 敬子さん・叶 順子さん・深海 美鈴さん・熊谷 恭市さん・上野山 雅也さん・大城 由絵さん・中谷 佳子さん・山田 陽三さん・仲 恵理さん・東 力也さん・衣奈 正記さん・松村 美貴さん・古根川 万希子さん・上川 さちさん・上坂 梨恵さん・丸尾 雅康さん・野瀬 布美子さん

「高い評価を受ける ハッピーミユ作業場」
～ステップアップへの強い想い～

山本産業の事業活動において、高い評価を受けているものがある事をご存知でしょうか？

それは、障がい者雇用です。

経営理念において、「社会貢献」が掲げられていますが、その想いは障がい者雇用にももちろん表れています。

障がい者雇用における社会貢献として、

『障がい者に働く場を提供し、生きがい・働きがいを感じ取ってもらう』

簡単に働く場を提供すると言っても、障がい者にどんな仕事ができるの？、と思われる方もおられるかも知れません。

もちろん健康者と障がい者が同じラインで作業をする事は不可能ではありませんが、人として生きがい・働きがいを感じる時は、やはり「人の役に立つこと、人に必要とされること」だと思うのです。

紀三井寺本社に設置した「ハッピーミユ作業場」は、ハンディを持っている障がい者の方々が、人に必要とされて働き、自分の出来る能力で仕事に取り組み、自分で稼ぐという幸せを感じ取ってもらうとともに、社会的、経済的自立へのお手伝いをする事を役割とし、ハッピーミユを自立への一つのステップにし、次のステップへチャレンジしていくことを願っています。

こうして、作業場を設置し、多数の障がい者を雇用する以外にも、支援学校や関係機関からの見学や職場実習の受け入れ、また、障がい者をサポートする「ジョブコーチ」を養成する実習先として提供したりと多くの貢献を行ってきました。

単に多くの障がい者を雇用しているというだけではなく、こうした会社として取り組むトップの姿勢がなによりも高く評価されています。

補足として、法定で『企業は従業員数の 2%の障がい者を雇用しなければならない』と定められており、現在、山本産業の雇用率は 2.6%です。

これは、和歌山県内で障がい者雇用義務のある民間企業は全部で 540 社あり、そのうち雇用率を満たしている企業は約 6 割しかなく、全体の障がい者雇用率も 2.03%なのです。

（記事作成 山本 純久さん）

絆

きずな

第三号



新年明けましておめでとぅございいます。

皆様におかれましては、ご家族ともお健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

昨年来より、日本経済はアベノミクス効果でデフレ脱却、景気上昇に期待感を与えてきています。弊社における昨年は振り返ってみますと、花王様から予想以上の生産発注を戴き、人手不足の中、皆さんの致団結した「絆」により請負責任を立派に果たしてくれました。人手のやりくりで混乱している生産現場でしたが、安全面においてヒヤリ事故がつかない生産活動を行って下さったことに對し、心より感謝申し上げます。これは一昨年の全員参加による作業リスクアセスメントへの取り組みの成果です。自分たちの作業を自分たちで評価し、作業の危険の存在を残留リスクと

おき、毎日始業前に今日の作業での危険を自分たちで確認し合う危険予知活動が定着してきました。私は常に安全なくして「よきモノづくり」はないと言っています。怪我しない、怪我させない「一人ひとりの思いを重ね、みんなで取り組む安全活動」の安全スローガンへの思いがみんなできてきました。今年も健康、安全第で「よきモノづくり」を行って下さい。

「事業は人なり」これは松下幸之助氏が遺した言葉です。製造請負、派遣を事業としている弊社は従業員の皆さんの能力で成り立っています。経営理念に「人を財とし、顧客に満足いただける優れた価値を提供し、顧客と社会に貢献する」と掲げ、当面の目指すもの（ビジョン）は「請負事業の自立への体質強化と働きがいある会社」を目標とし活動しております。活動における重点課題を次のように掲げています。

- ① 健康、無災害、品質苦情ゼロ活動の推進
- ② 現場力向上と組織運営力の強化
- ③ 業務の改善、効率化への飽くなき挑戦
- ④ 個の強化への積極的な人財育成
- ⑤ 働きがいへの人事制度、福利厚生充実
- ⑥ 地域社会への貢献

今年も皆さんと共に課題へ挑戦し、目標達成に向けて着実に前進したいと思っております。何卒ご協力、ご精進を宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

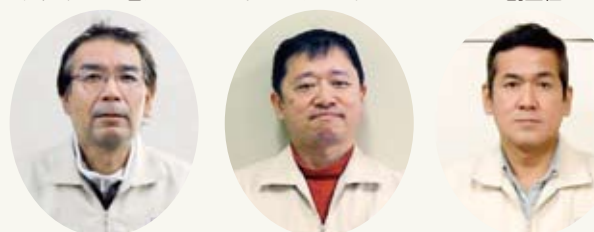
大東 俊晶

優良従業員表彰

2013年10月12日（土）に、例年行われている和歌山市手平の「和歌山ビッグホエール」にて、「第65回わかやま商工まつり 優良従業員表彰式典」がありました。

山本産業株の代表者3名を紹介します。

生産第一部門 ケミカルグループ ファインケミカル西チーム
生産第一部門 第一A・B グループリーダー
生産第二部門 設備 副主任



土山 純さん

勤続年数
30年9か月

嶋田 勝之さん

勤続年数
26年3か月

山本 良文さん

勤続年数
30年9か月

3名の方々これからも、当社従業員の模範となり、後世の育成にご尽力ください。

優良申告法人として、税務署より表彰を受けました

2013年11月25日、和歌山税務署の方が本社に来社され、表敬状の授与が行われました。

しかし優良申告法人って何?と思われる方もいると思いますので簡単に説明しますと、優良申告法人とは、税務署にて企業の経営内容の詳細を分析し、優良申告企業として認定する制度です。

そして優良申告法人に選定される法人は全法人数の約1%程度であり、非常に名誉なことなんです。

皆様が毎日働いていただいた結果である会社の利益をきちんと納め続けることで、経営理念にも掲げる「社会への貢献」を目指していきます。

